

Istanbul Weekly vol.1-no.2

イスタンブールウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2012年10月19日（金）

— 今週のポイント —

1. 政治： 地方選挙の日程変更をめぐる動き。
トルコ首相とイラン大統領の二者会談。
2. 経済： 原子力発電所建設計画の協議が継続。
闇経済の規模は縮小しつつも、なおGDPの37.5%と報道。
3. 治安： トルコ軍、現在の治安脅威数を引き上げ。
シシリ市オクメイダヌ区所在の小学校で音響爆弾が爆発。負傷者無し。
4. 社会： 犠牲祭にまつわる話題。
交通事情にまつわる話題。

1. 政治

●プーチン大統領の訪土は12月3日に

今週、トルコを訪問予定であったプーチン露大統領は、過密スケジュールを理由に訪問を延期していたが、12月3日にトルコを訪問すると発表した（10月12日付M紙）。

●北イラクへの越境軍事許可が1年延長、国会で承認

北イラクへの越境軍事活動に関して、1年延長を求めた首相府の決議案が国会で可決。越境軍事許可の理由は、国民団結と領土保全を脅かすテロ攻撃と脅威が継続することをふまえ、イラク北部を拠点とするPKKテロリストメンバーによる攻撃からトルコ国民の安全を確保すること。（10月11日付インターネットCNNT版）。

●BDP トウンジェリ議員に禁固8年9カ月の判決

BDP トウンジェリ議員は、PKK への人材供給等の理由に、禁固8年9カ月の判決を受けた。トウンジェリ容疑者は、2004年に北イラクでPKKが開催した会議で、PKKメンバーが着用するユニフォームを着て出席、DTPのバージュラル支部の会議に出席の上、支部への強制捜査で逮捕されたことが明らかになった。証人の説明では、更に同議員はイスタンブールで発生した火炎瓶攻撃の命令を下したこと、山岳要員として人員をPKKに供給したとされている（10月11日M紙）。

●空港封鎖

10日のモスクワ発ダマスカス行民間航空機がトルコ政府によってアンカラ空港に強制着陸停止させられた事件の後、トルコはシリア発民間機に対して領空通過を禁止した。シリアもこれに応酬して、トルコ民間機に対して同様の措置をとった（10月15日付H紙）。

●地方選挙の日程は早まるか

国会で、2014年3月に実施予定の地方選挙日程を5ヶ月前に早める法案に関する決議投票が行われ、549票のうち、賛成票は360で否決された。367票以上だと法案は通過するところだった。これを受けて国会は、ギュル大統領に国民投票にかかる提案を行ったが、ギュル大統領は、地方選挙が早まると(1)冬季にあたることと、(2)国民投票実施のための費用負担が大きいことを理由に、国民投票実施を否

決。これにより、国会で再投票が行われる見込み。賛成票が再度367票以下だと地方選挙は当初通り2014年3月に実施され、367票以上となる場合は、地方選挙は2013年10月に実施される見込み（10月15日付H紙及び17日付M紙）。

【参考論調】

地方選挙が2013年11月に前倒しされれば、エルドアン首相は2014年（8月24日に実施との推測もある）の大統領選挙前に地固めをしつつ、戦略を立てる時間を稼ぐことになる（10月16日付Murat Yetkin氏R紙）。

●ギュレン師の弟逝去

在米フェトフラー・ギュレン師の弟、ハスビ・ニダイ・ギュレン氏（66歳）が肺がんにより逝去した。葬儀は故郷のエルズルムで行われ、3名の大臣が出席した（レジェップ・アクダー厚生大臣、ビナリ・ユルドゥズ交通・海輸・通信大臣、ファルク・チェリク労働社会保障大臣）。ギュレン師は逝去した弟のため弔意を示したギュル大統領、チチェッキ国会議長、エルドアン首相を始めとする政府要人、メディアや企業トップに対し、感謝の意を表する新聞広告をザマン紙2面に亘って掲載した（10月15及び18日付M紙、TZ紙、Z紙）

●トルコ首相とイラン大統領の二者会談

エルドアン首相とアフメディネジャド・イラン大統領は、アゼルバイジャンの首都バクーで開催された経済協力機構（ECO）の際に会談した。エルドアン首相は、先日起きたシリア側からアクチャカレ地区への砲弾着弾事件について、トルコは正当な対応をしており、今後も必要があれば対応する用意はあると発言。アフメディネジャド大統領は、同問題についてトルコへの支持を表明（10月16日付M紙）。

●米国の駐トルコ大使の記者会見

16日、米国のリチャード・ネ駐トルコ大使は、アンカラで記者会見を行い、米国は現在のシリア状況についてトルコのシリアに対する姿勢を支持し、同盟国のトルコやヨルダンを信頼していること、トルコがシリアと戦争する可能性はないと発言。またPKKに関する記者の質問に応じ、米国

はPKKと北イラクに関する諜報情報をトルコ政府と共有または提案の形で協力しているとした（10月17日付M紙）。

●大都市制に新たに加わる13都市【注】では税金が2倍に

13都市が新たに大都市制に移行する法案が現在国会において審議中だが、これらの市が大都市制に移行すると、住民は住宅、事務所、商業店、土地等の税金をこれまでより2倍支払うことになる。不動産税法8条及び18条によれば、大都市圏内及び当該市の管理下の土地内では、100%の増税が課税適用される。

【注】13の都市（アイドゥン、カフラマンマラシュ、シャンルルファ、デニズリ、テキルダール、トラブゾン、ハタイ、バルケシル、マニサ、マラティヤ、マルディン、ムーラ、ヴァン）（10月17日付H紙）

●トルコ人ピアニスト、ファズル・サイ氏【注】に1年6ヶ月の実刑を求刑

ピアニストのファズル・サイ氏は、4月イランの詩人オメル・ハイヤム作の詩を風刺したコメントをリツイートしたことを理由に、「国民の一部が大切にしている宗教的価値を公的に侮辱した罪」により起訴され、第一審では1年6ヶ月の実刑を求刑された。第二審は来年2月18日の予定（10月18日H紙）。

※ファズル・サイ（Mr Fazıl SAY）：1970年アンカラ生まれ。ピアニスト、作曲家。アンカラ国立音楽院に学び、17歳でドイツに留学。1994年にニューヨークの国際オーディションで優勝し、その後は世界のオーケストラと共演。2008年には、欧州委員会が「文化間対話の欧州年」大使に任命。時折、政権や宗教に関する発言によりニュースに載るなど、音楽界の枠を超えた影響力ある世俗主義者。

2. 経済

●経常収支赤字が減少

シムシェキ財務大臣は、経常収支赤字が2009年11月以来で最も低い12億ドルとなった、過去8カ月の経常赤字も、昨年同期比で180億ドル減少して360億ドルとなったと述べた。主な原因は、外国貿易の減少、サービス部門収入の増加など（10月12日付HT紙9面）。

●シリアからの電気購入を中止

ユルドゥズ・エネルギー大臣は、シリアがトルコからの電気購入を先週停止したと述べた。トルコのカイセリで開催された第3回エネルギーサミットに出席した同大臣は、シリアが再び購入したければ、供給し続ける用意があると述べた（10月12日付HT紙8面）。

●TUSIAD 総裁の選挙

TUSIAD（トルコ実業家協会）は10日、新総裁を決定するために会議を行うと発表した。有力な2人の候補は、ムハッレム・ユルマズ氏（乳製品製造会社Sutas社社長）と、ハルク・ディンチェル氏（Sabanci Holding社小売業・保険業本部長）。ウミット・ポイネル現総裁の任期は来年1月まで（10月12日付M紙11面）。

●原子力発電所建設計画の協議が継続

11日、ユルドゥズ・エネルギー大臣は、ア首連政府関係者が、黒海沿岸のシノップにおける原子力発電所建設について、仮に韓国が落札する場合にはア首連も協力する可能性があり得ると述べたことを明らかにした。

また、同大臣は、15日、シノップ原子力発電所に関心を示している日・韓・中・加の4カ国と協議を継続しており、

先行する国が明らかになりつつある、今後第3原子力発電所の建設があり得るが、その場所は未定であると述べた。関係者間ではアンカラまたはイスタンブール北西のイーネアダ（İgneada）が有力と憶測（10月12日付HD紙インターネット版、10月16日付H紙第10面、10月18日付M紙12面）

●7月の失業率は8.4%

7月におけるトルコの失業率は前年同月比で0.7%減少して8.4%であると発表された。失業者数は昨年7月で250.9万人であったのが、本年7月には232.3万人に減少した（10月15日付S紙インターネット版）。

●ババジャン副首相、明年の増税に含みを持たせる

IMF・世銀総会出席のため訪日したババジャン副首相は、本年は課金に係る新たな措置は行わないが、2013年の状況によっては追加的措置があり得ると述べた（10月15日付V紙インターネット版）。

●イシュ銀行と三菱東京UFJが相互協力合意

イシュ銀行と三菱東京UFJ銀行が、包括的で相互的な銀行サービスを両行の顧客が受けられることを目的とした合意文書に署名した（10月15日付HT紙10面）。

●カルス・ナヒチュバン鉄道建設計画の費用は80億ドル

15日、ユルドゥルム運輸大臣は、先月のアゼルバイジャン訪問時に原則合意に達したカルス・ナヒチュバン鉄道建設計画の費用が80億ドルに達し得る旨述べた。同計画では、カルス・スズ（Susuz）・ディルウジュ（Dilucu）・ナヒチュバンを鉄道で連結する結果、トルコとアゼルバイジャン、更にはイラン、トルクメニスタンが鉄道でつながることになるもので、建設対象区画の全長は222キロ（10月16日付H紙13面）。

●闇経済の規模はGDPの37.5%

ババジャン副首相は、税や規則の適用から逃れているいわゆる「闇経済」の規模について、かつてはGDP比50%超であったものが、現在では37.5%まで減少したが、依然として大きいと述べた（10月16日付HD紙7面）。

●トルコ航空の課題（コティルTHY社長）

コティル・トルコ航空社長はインタビューで、同航空の総売上高の70%が国外でのチケット販売である、同航空は90カ国204都市へのフライトを実現したが、フライト数ではルフトハンザやフランス航空の日量2000に対し、半数の1000でしかなく、フライト増が必要であるとの認識を示した（10月16日付HD紙10面）。

●屑金の輸入増

屑金（scrap gold）のトルコへの輸入は、昨年17トンから本年9ヶ月だけで40トンと大幅増。その理由として、屑金輸入にかかる付加価値税（18%）が本年初頭より免除されたことが大きい。主たる輸入先はギリシアとイラン（10月16日付HD紙10面）。

●2013年度予算案

シムシェキ財務大臣は、2013年度予算案の特徴について以下の通り指摘した。

- ・収入 3710億リラ
- ・支出 4040億リラ
- ・主要支出項目 教育681億リラ 保健647億リラ
- ・79000名の新規公務員採用、うち14000名は大学職員（10月17日付H紙12面）。

●ガソリン価格が微減

ガソリン価格がリットル当たり13クルシュ値下げ。原因は、為替の変動および石油価格の下落。また、トルコ石油

精製公社 (TIPRAS) 総裁は、ガソリンと軽油に対する特別消費税を同率にすることにより、ガソリン価格は 60 クルシュ押さえることができるとして、財務省にこの旨提案したことを明らかにした (10月17日付H紙14面)。

●トルコTVドラマの輸出が好調

トルコは 2007 年より海外へのテレビドラマ輸出を開始したが、現在では 73 カ国に 150 種類のドラマを輸出している。販売額も 2007 年もの 100 万ドルから現在では 1 億ドルへ上昇。本年は韓国、中国からも販売要望が接到している (10月17日付HD紙8面)。

●トルコ格付上昇の期待

17日、格付機関 Fitch は 11月8日に「トルコの金融観測」の名称で会議を開催することを発表。関係者の間では、トルコの同社格付がBB+から1段階上がって投資適格となるとの期待が広がっている (10月18日付M紙10面)。

●自動車業界の貿易収支が黒字に

自動車工業会のレポートによると、本年 1~8 月期の自動車産業界の貿易収支が 7 億 5600 万ドルの黒字を計上。昨年同期は 23 億ドルの赤字であった (10月18日付M紙11面)。

●論説：シリア危機による経済的損失 (Gungor Uras 氏)

シリア危機によるトルコ・シリア国境の閉鎖は対シリア貿易の激減にとどまらず、シリア経由で輸出している 11 カ国の中東諸国向け貿易にも深刻な影響を与えている。国境の閉鎖によって輸出の道が閉ざされる訳ではないが、メルシン港 (トルコ南部) から船舶輸送でエジプトを経由させる場合、これまで 4 日で済んでいた輸送日数が合計 20 日に長期化する上、経費も跳ね上がる。危機前の 2010 年にはシリア国境を年間 10 万台以上のトラックが往来していたため、影響は大きい。

3. 治安

●シリア民間機の強制着陸 (続報)

強制着陸させられたシリア民間航空機に関し、エルドアン首相は発見された軍事転用可能物品の発送者はロシア軍、受領者はシリア国防省と発表した。(10月12日付C紙15面)

ラブロフ・ロシア外相は、機内には合法的なレーダーシステムのための電子機器があっただけだと述べた。(10月12日付ロシア外務省ウェブサイト)

シリア政府は、10月13日深夜から、トルコ民間旅客機がシリア領空の飛行禁止措置を決定した。(10月13日付AFP)

トルコ政府は、上記措置を受け、10月14日シリア民間旅客機のトルコ領空飛行禁止措置を決定した。(10月14日付AFP)

●トルコ軍が脅威数を 2.5 に引き上げ

トルコ軍は、現在の脅威数 1.5 (ギリシャ 1, 国内テロ 0.5) を 2.5 (シリア 1, ギリシャ 1, 国内テロ 0.5) に引き上げた。(10月12日付C紙8面)

●250台の戦車がトルコのシリア国境に配備

トルコ軍は、シャンルウルファ、マルディン、ガズィアンテップ各県のシリアとの国境に最低でも 250 台の戦車を配備した。(10月12日付H紙1面)

●韓国航空産業株式会社 (KAI) がトルコ軍へ、見積書を提出

韓国航空産業株式会社 (Korea Aerospace Industry) はトルコ軍のヘリコプター導入の入札に参加した。(10月12日付H紙1面)

●外国人が胃に隠匿したコカインを密輸

8月31日~9月27日にかけて、9名の外国人が合計約 9kg のコカインを胃に隠匿し、アタテュルク国際空港で拘束された。(10月12日付C紙13面)

●論説：PKKによるトルコ南東部学校への攻撃の意図

テロアナリストによると、学校を攻撃する PKK の意図は、若い PKK 要員の獲得である。以下は参考論説。

【在アンカラ国際テロ・国際犯罪研究センター Suleyman Ozeren 氏の見解】

- ・同時多発的に学校が襲撃された10月10日は、PKK のリーダー・オジャランがシリアから国外退去させられた日。
- ・学校を攻撃することは、教育と教育を受けた人への示威行為

【Hazar 戦略研究所所長 Mesut Ulker 氏の見解】

- ・PKK は戦術を変えているとは思わない。
- ・PKK は若者の参入減少に直面しており、教育が浸透すればより減少するだろう。このため、学校への攻撃は続くだろう。

- ・学校への攻撃により、一般人から PKK は距離を置かれることになり、さらに暴力的になるだろう。

【ジャーナリスト Adem Yavuz Arslan 氏の見解】

- ・誰も爆弾の脅威がある学校へ子供を行かせたくない。
- ・学校では、クルド語の教育が政府の承認により始まっている。これにより、PKK が子供達を自分達の訓練施設へ送る最も強い論拠 (自分達のところに来れば、クルド語により教育されクルド人として育つとの主張) を失ったことになる。
- ・学校での教育が続けば、PKK は支援者を失い続けるだろう。

(10月11日付TZ紙インターネット版)

【ジャーナリスト Mustafa Akyol 氏の見解】

- ・すべての教科を母国語のクルド語で行わない公立学校での教育は、クルド語教育を建前にして、政府寄りの教育を行うため、文化的で組織的な大量虐殺と PKK は考えている。

(10月17日付DN紙7面)

●シリアのアレッポ行きアルメニア民間機がトルコ政府から着陸要請を受ける

アルメニアからシリアの都市アレッポへ援助物資を輸送中のアルメニア民間機がトルコ政府の要請により荷物検査の為にトルコ国内に着陸、その後アレッポへ向けて離陸した。シリアには 6 万~10 万人のアルメニア人が居住しておりそのほとんどがアレッポに居住している。(10月15日付AFP)

●アル・カーイダのリーダーが各国に所在する米国大使館前で抗議活動を呼びかけ

アル・カーイダのリーダーであるアイマン・ザワヒリが、インターネットの Web 上でイスラム教を冒瀆したとされる "Innocence of Muslims" の抗議の為に、各国に所在する米国大使館前で抗議活動をするよう呼びかけた。(10月15日付C紙12面)

●シシリ市オクメイダヌ区の小学校に音響爆弾

10月15日 深夜、大イスタンブール市シシリ市オクメイダヌ区所在の小学校に音響爆弾が投げ込まれ、小規模な火災が発生したが負傷者なし。(10月16日付C紙3面)

【注】当館集計 (報道ベース) : 大イスタンブール市内爆弾関連事件件数 (未遂含) 45 件目 (昨年総数 29 件)

●トルコ南東部ハッキヤリ県等でのPKK掃討作戦及びPKKの活動

10月15日 トルコ南東部ハッキヤリ県の山岳部で軍警察とPKKが衝突し、9名のテロリストが死亡、1名の兵士が死亡、2名の兵士が負傷した。また、PKKは、トルコ南東部スィルト県において、教師3名、警備員1名を誘拐している。

北イラクのPKK活動家 Neriman Abdullah は、北イラクの Mahmur キャンプに住むクルド人に対しイラク国籍を取得するよう呼びかけている。(10月16日付C紙13面)

10月16日 トルコ南東部ハッキヤリ県で軍とPKKが衝突し、3名のテロリストが死亡、3名の兵士が死亡、1名の兵士が負傷した。(10月17日付AFP)

10月17日 トルコ東部ウードゥル県で6名の教師がPKKにより誘拐されたが、村民の抗議でPKKは1時間後に6名全員を解放した。(10月18日付C紙7面)

●論説：PKK戦術の変化

【トルコ情報局筋情報】

PKKの犯罪行為に変化が見られる。過去は(爆弾や火焰瓶の)ヒット&アウェイであったが、8月12日に発生した国会議員誘拐事件に代表されるように、最近誘拐事件が多くなっている。

- ・1990年～2010年20年間で約150名が誘拐。
- ・2011年7月～2012年8月の約1年間で145名が誘拐。
- ・急激に誘拐事案が増加している。
- ・対象は一般的に地方公務員、兵士、官僚。
- ・力の誇示と政府を交渉テーブルにつかせることが目的。

(8月以下不明付C紙不明)

●デニズリ市で警察による違法薬物取締

トルコ南部のリゾート地デニズリ市で県警による違法薬物の取締りが実施され、路上密売人65名の身柄を拘束、大麻1kg、エクスタシー(錠剤)250錠等を押収した。

(10月17日付AA)

●在トルコ米国大使がトルコ政府当局にPKK対策の協力の申し出

在トルコ米国大使は、ウサマ・ビン・ラーディン捕獲作戦で得た知見及び経験の共有をトルコ政府に申し出たが、エルドアン首相は、パキスタンでの同作戦は国際法違反であるとともに、PKK対策にはそのまま同作戦を適用できないと述べた。

(10月17日付DN紙4面)

●ムラト・カラユランPKK幹部のインタビュー

・トルコ軍による北イラク越境空爆攻撃やKCKに対する取締によりPKKは組織的に崩壊の危機にあり、組織を維持するためには今年の冬が正念場である。

・組織維持の為にPKKの青年組織を動員してプロパガンダを積極的にする必要はある。

・BDPとオジャランの間に指導権争いがある。

・PKKメンバーに対しトルコにとどまって戦うよう指令した。

・トルコ政府がシリアに軍事作戦を行えば、シリアのクルド人のためにトルコ領土で軍事作戦を行う。

(10月17日付H紙28面, AFP)

●2013年6月までにトルコ国内の避難民は40万人に達すると予想

ダヴトオール外相は、シリア情勢を受けて来年の6月までにトルコ国内の避難民の数は40万人に達するとだろう

と語った。またシムシェキ財相は4億トルコリラを同避難民の為に用意したと語った。

(10月17日付DN紙1面)

●イスタンブール県警テロ対策課が4個の爆弾を押収

イスタンブール県警テロ対策課、昨日17日バージュラル市で実施した家宅搜索の結果、左翼過激派(TIKKO:トルコ労働者・農民解放軍)3名のメンバーが所持していた4個の手製爆弾を押収するとともにその身柄を拘束した。攻撃対象は大イスタンブール市内にある警察施設であったとされている。

(10月18日付C紙10面, H紙28面)

●シリアから迫撃砲弾がトルコ国内に着弾、トルコ軍直ちに応酬

17日午後4時15分、シリアからの迫撃砲弾がハタイ県に着弾したが負傷者無し。トルコ軍は直ちに応酬した。(10月18日付C紙10面)

4. 社会

●イスタンブールはヨーロッパのほとんどの都市より渋滞する

TomTom社(カーナビ等を供給している会社)が2012年4月と6月に調査した、ヨーロッパの都市での交通渋滞の測定結果を公表。イスタンブールが一番渋滞する都市である結果となり、それによると通常より平均で57%、朝のラッシュアワーでは84%も時間が余計にかかる。(10月13日付H紙1及び20面)

●ガソリンが1リットル5TLに向けてカウントダウン

10月12日深夜、ガソリンがまた値上がりした。8~9クルシの値上げで、ガソリン価格はついに1リットル4.92TLと世界最高水準になった。(10月13日付R紙インターネット)

●犠牲祭で20億TL分の動物が消費される

10月25日が初日となる犠牲祭用の犠牲動物の購入について、食料・農業・畜産省は「本年は、犠牲動物の輸入はしない」旨を発表し、国内畜産業者を安心させた。羊は1頭あたり700-1200TLで約250万頭が、牛は1頭あたり4000-8000TLで約6万頭が取引される予定。(10月13日付H紙16面)

●高収穫で値上げにブレーキ

例年に比較して、本年は穀物・豆類の収穫が多いため、小売価格の値上げにブレーキがかかっている。特に米の価格は近年大きく変動していたが、今年は落ち着いている。(10月14日付H紙13面)

●11の学校で古い部品を使用し「耐震工事」を行った業者が発覚

2010年、大イスタンブール市特別行政課による、ベシクタシュ、シシリ市などにある11校(アタチュルク・アナドル高校など下記参照)に対する耐震工事の入札に勝った2社が依頼した下請け業者が、ある学校から取り外したものを別の学校に取り付けるなど古い部品を使いまわしていたとして内部告発を受け、起訴された。(10月15日付HT紙15面)

地域	学校名
ベシクタシュ	アタチュルク・アナドル高校
	スイヤ・カルガヴァン海洋高校
	第100ムスタファ・ケマル小学校
シシリ	産業職業高校
アタシヒル	アタシヒル社会住居小学校
ベイコズ	ファーティヒ・ホジャ小学校
	ギュゼルジェヒサル小学校
ウムラニエ	プナルバシユ小学校
	アフメット・ヤヴズ小学校
	メフメット・アリ・ユルマズ小学校
	アタケント高校23

●トルコの名俳優が死去

トルコの舞台及び映画俳優 Erol Gunaydin 氏が、イスタンブールの Kadikoy Acibadem 病院で死去。79 歳。(10 月 16 日付 C 紙 1 及び 16 面)

●学校でのアタチュルク小学校名称変更

ヴァン県のエリジシュ区に 2011 年 10 月 23 日の地震で被害をうけたアタチュルク小学校の修理が完了した。学校の名前をアタチュルク小学校から変更し、トルコの首相の親の名前テンジレ・アナ (Tenzile Ana) 小学校になった。(10 月 17 日付 C 紙 3 面)

●JSTVの受信障害

10 月 15 日より JSTV が視聴出来ない状態がたびたび発生。原因は JSTV の放送を委託しているユーテルサット社の放送衛星「ホットバード」が、妨害電波を受けているものと考えられ、同じ周波数域の BBC ワールド、EURO NEWS

なども同様の障害を受けている。(JSTV ホームページより抜粋)

●犠牲祭中の路上 ISPARK は 2 日間無料

大イスタンブール市役所の決定によれば、ISPARK (市営駐車場) のうち、市内約 500 カ所の「道路上」にある駐車スペースは、10 月 25 日(金)と 10 月 26 日(木)の 2 日間無料になる(但し、屋内や専用スペースの駐車場は無料とはならない)。

Bayram 中には、ISPARK に対する専用苦情電話 0212 274 20 20 を設置する。

(10 月 18 日付 S 紙 32 面)

●4+4+4 教育システムの最初のレポートが発表

イスタンブール文部科学総局は、4+4+4 教育システムの最初の報告書を発表した。

・現在はシステム過渡期のため、すでに行った授業をもう一度行うこともあり、その生徒は(2 度目なので)退屈している。

・多数の学校が、耐震補強を完了する前の建物で授業を始めざるを得なかった。

・ウムラニエ Ümraniye にある高校で、選択するコースによって、「世俗的な」あるいは「宗教的な」と呼ばれるクラスがそれぞれ出来ている。

・1 クラスに居る学生数が 80 人に増えた。

・マルテペ (Maltepe) にある高校では、宗教教育を教えるために教員資格の無い 3 人の宗教関係者が任命された。

(10 月 18 日付 R 紙 7 面)

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		エージェント	
Cumhuriyet	C	Herald Tribune	HE	Anadolu News Agency	AA
Hürriyet	H	The Daily News	DN	Agence France Presse	AFP
Vatan	V	Economist	EC	Cihan News Agency	CA
Akşam	A	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M	Hürriyet Daily News	HD	Ihlas News Agency	IA
Sabah	S				
Radikal	R				
Zaman	Z				
Posta	P				
Haberturk	HT				

在イスタンブール日本国総領事館

電話：212-317-4600

FAX：212-317-4604

E-Mail: istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB: http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html

facebook: http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu

●トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。

●新規で配信をご希望の方、配信を希望されない方は、お手数ですが以下のメールアドレスにご連絡ください。

istanbulweekly@it.mofa.go.jp

●犠牲祭のため、次回(10月19日~11月1日分)は11月2日に配信予定です。

●総領事館のお知らせ

1. 11月の行事予定

★船曳健夫 東京大学大学院名誉教授（文化人類学）による講演会

講演テーマ：「日本人とは何かー東日本大震災時に日本人はどう動いたかー」

日時：11月7日（水）16～18時

言語：英語

入場料：無料